

# 患者の皆様へ

2018年10月20日  
肝胆膵外科

現在、肝胆膵外科では、「肝胆膵領域癌における STAT3 活性と癌悪性度との関連性に関する後ろ向き研究」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では原発性肝癌・膵癌・胆道癌の患者さんの診療情報などを利用させていただきます。原発性肝癌・膵癌・胆道癌の診断で2000年1月から2017年12月までに当科にて根治手術を施行され、手術時に病理用パラフィンブロックが作成されて保管されている患者様が対象です。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. 研究課題名 「肝胆膵領域癌における STAT3 活性と癌悪性度との関連性に関する後ろ向き研究」

## 2. 研究の意義・目的

原発性肝癌・膵癌・胆道癌などの肝胆膵領域癌は外科的根治手術が可能であっても、術後早期に再発、転移を来すことのある疾患です。癌の進展には STAT3 という転写因子が深く関与していることが知られますが、肝胆膵領域癌におけるその詳細な働きは未だ解明されていません。そこで本研究では、原発性肝癌・膵癌・胆道癌における STAT3 活性に深く関わる因子を見出すことを目的としました。

## 3. 研究の方法

原発性肝癌・膵癌・胆道癌の診断で2000年1月から2017年12月の間に当科にて根治手術を施行され、手術時に病理用パラフィンブロックが作成されて保管されている患者さんが対象です。対象患者様の病理用パラフィンブロックを使用して各種免疫染色にて蛋白発現を解析し、各患者様の診療情報（性別、年齢、採血データ等）や臨床病理学的因子や予後データとの関連を解析し評価します。

## 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、外部に洩れることのないように厳重に管理します。データは匿名化された後、千葉大学にて解析されます。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。臨床データ等の診療情報は、千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教室の鍵のかかる棚で保管します。

## 5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をします。下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

研究実施機関 : 千葉大学医学部附属病院 肝胆膵外科

本件のお問合せ先 : 医学部附属病院 肝胆膵外科

医師 久保木 知

043 (222) 7171 内線 72226